

第5回 関西支部研修会

平成31年度 第5回 関西支部研修会

演題午前：インビザラインでできること できないこと 変わったこと

演題午後：顎機能に調和した顎顔面・咬合再構成臨床の実際

日時：平成31年3月10日(日)

場所：梅田センタービル 322号室

講師：有本 博英先生、浅野 栄一朗先生



矢田 孔太郎 (滋賀県)



平成31年3月10日(日)梅田センタービルで第5回関西支部研修会が行われました。午前是有本博英先生より「インビザラインでできること、できないこと。変わったこと、変わらないこと」というテーマでご講演頂きました。巷で囁かれる神話について豊富な臨床経験をもとに解説して頂きました。簡単に始められる(出来るわけではない)があくまで矯正の一つの手段であること、基本があつての治療法であると改めて認識しました。また患者様も含めたチーム医療でありそれぞれが役割をきちんとこなすことで良好な成果が得られると話されていました。

特に印象に残っているのは、患者さんのモチベーションを維持するためにしていることや良い結果得るためには患者の協力が不可欠であり、そのためのお手入れの仕方などスタッフが中心となって動画を作りユーチューブで見れるようにしているというのは大変驚きでした。

また、アタッチメントに関しては精密にフィットしないとちゃんと移動せず拡大鏡は必須であり、バリを除去するためにブラックライトを使用していることやライナーの製作のために何度も細かい指示を英語でやりとりすることなどを聞いて、

ライナーを渡すだけの簡単な矯正ではないと再認識いたしました

午後の浅野先生の講演は、顎機能に調和した顎顔面・咬合再構成臨床の実際というテーマでした。上顎の劣成長が原因で発症する不正咬合や下顎偏位を伴う顎関節症の患者に対し、まずその主要原因である上顎の劣成長の改善のために急速拡大装置を用いて上顎の正中口蓋縫合を開くことで上顎顎堤の骨延長を促し、その顎堤および歯列弓の拡大を図り不正であった上下顎前歯歯軸を改善するという内容でした。

そして、上顎を拡大するための外科処置に関して、以前では大学病院への紹介と考えられるような症例でも、最近では局所麻酔下にて日帰りで行うことが多く、症例によっては一時間程度で終わるということでした。患者にとっても選択肢が増えて良いことだと感じました。

本日学んだことをすぐ日々の臨床に生かしていくことは、なかなか難しいかとは思いますが、少しでも日々の診療に生かしていければと思います。このような大変貴重な機会を与えていただきありがとうございました。